



報道関係者各位

アートフェア東京2020

～日常と非日常を行き来するアート～

ロビーギャラリーでの2セッション「Crossing(クロッシング)」 「Projects(プロジェクト)」紹介！

記念すべき15回目の開催となる日本最大級のアート見本市「アートフェア東京2020」(以下「AFT2020」、期間：2020年3月20日(金)～3月22日(日)なお、3月19日(木)は招待日)の入場無料エリアであるロビーギャラリーで展開する2つのセッション「**Crossing(クロッシング)**」、「**Projects(プロジェクト)**」について紹介します。「Crossing」はAFT2020が掲げるテーマである“with Art”に沿って、生活に非日常的な美を取り入れるための様々なアプローチを提供します。「Projects」は今注目すべきアーティストをギャラリーが個展形式で紹介し、AFT2020の玄関口となるロビーギャラリーを彩ります。

「美から日常へのアプローチ」 Crossing (クロッシング)

日本人は、欧米のように美術を素材や表現手法などで区別し純粋化するようなプロセスを取らず、美を生活に取り入れることを選んできました。アートフェア東京の玄関とも言えるロビーギャラリーで展開する

「**Crossing(クロッシング)**」セッションは11軒の出展者で構成され、アートフェア東京2020のテーマ“with Art”に呼応するように、日常に寄り添う様々なアプローチでアートの世界へ引き込みます。衣食住の商品群とともに生活に美術品を取り入れながら、100年以上日本の暮らしと美術を近代化し続けてきた**百貨店**。従来の工芸技術を、増加する人口に対応するように生産効率を高めながら発展させ、その時代の美を取り入れながら作品を作り続けた**工芸産地**。また、日本から海外を覗く窓となり、同じく近代化を牽引し、若手アーティストの育成にも貢献し続けた**美術館**。

そして、**テクノロジー**を取り入れながらエンターテインメントとしての展示を工夫する新たなギャラリーや、身につける美術というアプローチの**アートジュエリー**を扱うギャラリーが出展します。これら全ては「非日常的な美を日常でも用いる」切なる願いであり、ロビーギャラリーを彩ります。



AFT2020の玄関口！今注目すべき12名のアーティストを個展形式で紹介する Projects (プロジェクト)

ロビーギャラリーのもうひとつのセッション「Projects」。今注目すべきアーティストを、ギャラリーが個展形式で紹介し、アーティストのエッセンスを約6㎡のブースに凝縮する注目のセッションです。12名のアーティストのうち、3人は海外出身のアーティストで、6人は35歳以下の若手アーティストです。その作品は鑑賞者に知覚の変様を認識させます。

アメリカの若手作家、**エヴァン・ネスビット**(P02|KOKI ARTS)は、変形されたキャンバス、色や素材、量感を用いて

鑑賞者と絵画の触覚的、視覚的な知覚の関係を探究します。ドイツとイタリアを拠点にする**クリスティアーネ・レーア**

(P01|Taguchi Fine Art)は、採取してきた植物の種子や、動物の毛などの一見繊細な素材から、自然界の中にある数学的な法則や建築的な構造を探究しています。中華人民共和国出身の**馬嘉豪**(P07|TAV GALLERY)が作る大量の人型フィギュアを樹脂で固めた作品は、フィギュアのチープさとは裏腹のリアリティを帯びます。

大西伸明(P03|MA2 ギャラリー)と、**小橋順明**(P04|COMBINE/BAMI gallery)は写実的に立体作品を作りながら、大西は「オリジナル」であることへの問いかけと存在の揺らぎを示唆し、一方小橋は昆虫という小さなモチーフを細密に描写することで、不在である「命の存在」を強く感じさせます。**泉水**(P05|Gallery 花影抄)は「海を渡ってきた動物・人、文化」と日本の交流についてユーモアと皮肉に富んだ鳥獣戯画のような現代根付を制作し、**HIDEYUKI KATSUMATA**(P06|レッドアンドブルーギャラリー)は春画に着想を得た平面作品を発表します。自身が訪れた土地の風景を、絵画を使ったインスタレーションで表現する**稲垣美侑**(P12|クリアギャラリートーキョー)の油彩や、**多田恋一郎**(P08|TAKU SOMETANI GALLERY)の色彩が印象的なポートレート。原始的な彫刻のフォルムを想起させながら、軽やかなコラージュ感のある**今野健太**(P10|HARMAS GALLERY)の石彫、シリコンをメディウムにすることで厚みのあるマチエールに独特の軽さを閉じ込める**午居 悟**(P11|Takashi Somemiya Gallery)の絵画。特徴的に鋭い線、壮大なスケール感と構図で没入感のある都市風景を描く**田島大介**(P09|ex-chamber museum)の作品が出品されます。

ProjectsはAFT2020の入り口、そしてテーマ“with Art”「アートと共に暮らす」の入り口となるセッションです。



Crossing

C01 西武・そごう



西武渋谷店では2011 年より「Art meets Life」というストアコンセプトを掲げ、最先端のファッションはもとより、アートやデザインから暮らしにクリエイティブを発信してきました。今回の「アートフェア東京 2020」では、1980 年代より西武が紹介してきたストリートカルチャーを中心に、独自の表現をおこなうアーティスト5人の特集いたします。

参加予定作家 D*Face / Meguru Yamaguchi / Riyo Kim / Tristan Eaton / Usugro

C02 MIN



「MIN jewelry & crafts」がセレクトするのは日常の一步先にある〈非日常の用品〉です。手工芸性の高さを感じさせる美しい手技（てわざ）や、たぐい稀なる感性が紡ぎ出すジュエリー&クラフト。

つくり手たちの揺るぎない世界観と“用と美”を兼ね備えた作品の数々を小さなギャラリーに集めました。

参加予定作家 齋藤佳世 / 詫間康二 / ミスイ / 濱野太郎

C03 gallery deux poissons



ギャラリードゥポワソンは、2003年5月恵比寿に開廊した、コンテンポラリージュエリーを取り扱うギャラリーです。

静かな住宅街にあるギャラリーでは、貴金属や宝石のジュエリーをはじめ、ガラスやアクリル、木や段ボールに至るまで多様な素材から作られた、日本で見る機会の少ない国内外のジュエリーコレクションをご紹介します。コンテンポラリージュエリーとは、従来の固定概念から解放された自由なものです。世界中のジュエリー作家が表現する自由なジュエリー作品を、ギャラリードゥポワソンでは大切に紹介しています。

今回は、ペを拠点に国際的に活躍するジュエリー作家であるJiro Kamata、近年バルセロナで175 年の歴史を持つウニオン・スイサのオリジナルブランド「MISUI」のクリエイティブディレクターに就任したMarc Monzo、ミニマルで日本的な美しさを持つガラスのジュエリーを制作するbubunのほか、昨年も人気だったMoko Kobayashi、世界的に有名なジュエリー作家であるKarl Fritsch、Mari Ishikawa、Ritsuko Ogura、Claude Schmitz、bororoの10名の作家のジュエリーを展示いたします。

参加予定作家 栗原章子 / ポロロ / プブン / クラウド・シュミット / 鎌田治朗 / カール・フリッチ / マーク・モンゾ / いしかわまり / 小林モー子 / 小倉理都子

C04 公益財団法人ポーラ美術振興財団



公益財団法人ポーラ美術振興財団では活動のひとつとして、日本の芸術分野の専門性を高めることを目的に、毎年、35歳以下のアーティストを対象に海外での研修を援助する助成活動を行っています。今回、ポーラ美術館 木島俊介館長 監修のもと、過去に研修員として採択された青木美歌（ガラス）、林恵理（ガラス）、中村愛子（ステンドグラス）の3名による個性豊かな作品をご紹介します。

参加予定作家 青木美歌 / 林 恵理 / 中村愛子

C05 三越伊勢丹 ART GALLERY



株式会社三越伊勢丹は、これまで以上に現代アートへの取り組みを加速していきます。その嚆矢として、1980年代に彗星のように登場し、現在もアートの世界の最前線で走る続ける美術家・日比野克彦氏の個展を開催いたします。日比野氏のトレードマークともいえる、ダンボールを素材とした平面・立体作品を中心に展覧いたします。

参加予定作家 日比野 克彦



Crossing

C06 Empire Arts



Empire Entertainmentは、NY・東京および香港を拠点に、世界中でイベントそしてキャストイングを手掛けるイベントプロダクション会社です。

幅広いネットワークを活かし、2016年にアーティストマネジメント部を立ち上げ、現在は国内外問わず、ボディ・3Dペインター、映像アーティスト、ミュージシャン、サイバーマジシャン等、ジャンルを超えた22組のユニークなアーティストが在籍しています。人をわくわくさせるエンターテインメント、あっと驚く空間作りに日々向き合っているEmpireが、今年はいじめて「ART FAIR TOKYO」に参加させていただきます。ご紹介するのは実力派若手アーティスト、画家・柏原晋平、イラストレーター・竹井千佳。作風が対照的な2人の作品を、Empireならではの遊び心を加えて展示します。最先端のARテクノロジーを取り入れたアプリを起用して、人間の五感に訴える今の時代ならではの新しいアートの楽しみ方を提案します。

参加予定作家 柏原晋平 / 竹井千佳

C07 Artglorieux GALLERY OF TOKYO (アールグロリュウ ギャラリー オブ トーキョー)



Artglorieux GALLERY OF TOKYOは2017年4月、GINZA SIX 5階にオープンした、(株)大丸松坂屋百貨店が運営するギャラリーです。百貨店での経験を活かし新しいジャンルのアートや有望な若手アーティストたちの作品を展開しています。アートフェア東京2021では現代アーティスト・木村佳代子を紹介いたします。命を刻み込むように細密に描かれる花々を通して表現される、木村オリジナルの世界観や死生観が鑑賞者の心を捉えます。

参加予定作家 木村佳代子

C08 T.A.G GALLERY



T.A.G GALLERYは、富山市・協賛企業・美術商が連携して、富山ゆかりの作家を支援するギャラリーです。国内外で作品を発表する場を提供し、更には販売まで繋げていく事が目的です。

2011年からの8年間は日本国内のみの支援活動でしたが、2019年からは念願の海外(シンガポール)での発表の場を得ております。シャングリラホテルやアートスクール等からの協力も頂いており、作家たちが大きな夢、希望を持って制作活動出来る国際事業へと変化しております。今回も実力ある作家が出品しておりますのでご期待下さい。

参加予定作家 吉田謙也 / 岩坂卓 / 佐々木光 / 平井千香子

C09 金沢クラフトビジネス創造機構



金沢クラフトビジネス創造機構は、金沢の工芸・クラフトのビジネス化を推進するために、金沢市により創設されました。本市には金沢美術工芸大学や金沢卯辰山工芸工房があり、多くの若手作家が研鑽を重ね、国内外で活躍しています。今回は、本市にゆかりのある工芸作家を紹介します。茶の湯が盛んな金沢らしい洗練された「茶箱」から、工芸素材・技法を表現豊かな造形に展開した現代時工芸作品まで、工芸の「今」を感じる作品を紹介します。

参加予定作家 十一代大樋長左衛門 / 坂井直樹 / 村本真吾 / 安達大悟 / 霧林舞美 / 他

C10 金沢卯辰山工芸工房



金沢卯辰山工芸工房は、金沢の伝統工芸の継承と発展を目的とし、工芸振興に寄与する人材を育成しています。陶芸・漆芸・染・金工・ガラスの5つの工房からなり、技術研修者たちは、日頃の実技研修や制作発表を通して、高度な工芸技術と優れた造形感覚を養い、日本国内をはじめ、世界に向けて工芸の可能性を発信しています。アートフェア東京への出展は7回目、今回は選抜の10名が出品します。素材と対話する若き作り手たちの感性と、表現の多様性をご覧ください。

参加予定作家 釣光穂 / 藤原愛 / 中田真裕 / 鶴飼康平 / 三尾瑠璃 / 井上藍 / 和田真以子 / 菅野有紀子 / 佐藤静恵

C11 香川県漆芸研究所



香川県漆芸研究所は、彫漆(ちょうしつ)、蒔絵(きゑ)、存清(ぞんせい)など香川県の伝統的な漆芸技法を伝承し、後継者の育成と技術の向上を目的として1954年に設置されました。同研究所では、漆芸技術の他、造形や色彩感覚、漆芸に対する姿勢等を、人間国宝などの講師陣から直接、学ぶことができます。

出展アーティストの加藤友理、坂本征志はいずれも研究所の修了生です。加藤友理は京漆器の技法である蒔絵や螺鈿も併用した華やかな器、坂本征志は乾漆でオブジェ感覚の器や造形物を制作しています。いずれも現代的で清新な感覚で彫漆や存清などの技法を用いて装飾し、箱や酒器、茶道具やオブジェを制作しています。

参加予定作家 加藤友理 / 坂本征志



Projects

P01 Taguchi Fine Art



クリスティアーネ・レーアは1965年、ドイツ、ヴィースバーデン生まれ。現在ケルン(独)とプラート(伊)を拠点に世界各国で作品を発表。自然界に存在する植物の種子や茎、馬の毛や犬の毛といった、普通彫刻には使われない素材を使って立体作品を制作し、世界の背後にあって自然や有機物を成立させている数学的な法則や力、秩序や建築的な構造を探究しています。今回は一昨年日本に滞在して制作した版画作品を中心に、併せて素描と彫刻を展示します。

参加予定作家 クリスティアーネ・レーア

P02 KOKI ARTS



エヴァン・ネスビットは1985年アメリカ生まれ、カリフォルニア州在住。色、素材、そして量感を使用することにより、キャンパスの表面を超え、鑑賞者と触覚/知覚的な関係を築くような作品を制作しています。アメリカとヨーロッパを中心に発表、アートパーゼル（マイアミ、香港）やアーモリーショー（ニューヨーク）などのアートフェアにも作品が多く出品されています。アートフェア東京2020では、新作・旧作を交えて展示します。

参加予定作家 齋藤佳世 / 詫間康二 / ミスイ / 濱野太郎

P03 MA2ギャラリー



大西伸明は1972年岡山県生まれ。98年京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了。2013～14年、五島記念文化賞美術新人賞受賞によりドイツ・ベルリンに滞在。一貫して「存在」「オリジナル」とは？という問いに対して、制作を続けています。唯一無二の自然物、人の手と時間を経た古物。それらを型取りして樹脂で複製し、卓越した技術で本物そっくりに着彩した作品で注目を集めています。フェアに出品する「Infinity Gray」のシリーズは、作品の一部が透明になっていることで、その存在が消えてゆくように見え、美しさと同時に存在の揺らぎを感じ取れる示唆に富んだ作品です。

参加予定作家 大西伸明

P04 COMBINE/BAMI gallery



小橋順明は1976年岡山生まれ。小橋順明は焼物にて昆虫を制作します。その作品の精度は本物と見紛うほどであり、そこからは制作テーマである“命の存在”を強烈に感じざるを得ないでしょう。従来の焼物技術では到底考えられなかった作品群です。それ故に、焼物を超越し、ジャンルが見当たらない新しい作品世界を具現化し、唯一無二の存在として高い評価を得ています。アートフェア東京2020では彼の代表的モチーフを中心に新作を加え展示する予定です。

参加予定作家 小橋順明

P05 Gallery花影抄



泉水は大学でフランス文学を学び、その後、陶芸家として活動。陶による現代根付を中心に作品を制作発表しています。主なテーマは「江戸と現代」、そして「生きとし生けるものへのまなざし」です。根付芸術の伝統でもあるユーモアや親しみ、或いは少しの棘を凝縮して作品とします。今回の展示では、アジアの極東に位置する島国の日本と海を渡ってきた動物・人、文化の交流について、過去と現在、未来について考え巡らせ、陶根付や陶像を制作し発表します。

参加予定作家 泉水

P06 レッドアンドブルーギャラリー



KATSUMATA HIDEYUKIは、極彩色で描かれた和製ファンタジーを表現します。浮世絵や漫画、曼陀羅を彷彿とさせるその世界観から、現在海外の美術館やギャラリー、アートフェスティバルで高い評価を受けています。国籍やジャンルを超えたコラボレーション*、物理的な「旅」とともにある日常から生み出された作品は、“いとうべき現世（＝浮世）”を力強く、時にコミカルに表しています。国内のアートフェアでの個展は初出展で、昨年より精力的に挑んでいる春画シリーズを含む新作を発表します。

*Little Dragon (Sweden), CUZ (UK), TRK (Thailand), NAKAMA de ART (Japan)

参加予定作家 HIDEYUKI KATSUMATA



Projects

P07 TAV GALLERY



参加予定作家 馬嘉豪

馬嘉豪(マ・ジャホウ)は1996年生まれ、中華人民共和国、西安出身の気鋭作家です。大量の人口数の下に存在する問題や矛盾をミクストメディアで表現。主な受賞歴は、第4回CAF賞入選、第22回岡本太郎現代芸術賞入選。2018年にTAV GALLERYで開催した初個展「霾(PM2.5)」では、PM2.5の香りと煙を空間内で再現する先鋭的な企画に挑戦しました。本展覧会では、ランダムに散らばった人のかたどる9999体のフィギュアをFRPで固めた縦幅112cmと横幅162cmに及ぶ大型のミクストメディアの新作を出品いたします。

P08 TAKU SOMETANI GALLERY



参加予定作家 多田恋一郎

多田恋一郎は1992年生まれ。2018年東京藝術大学大学院修了。主に、しっかりとした色彩と筆致による独特で力強いポートレートや、変形されたキャンバスによる作品など特徴ある絵画を制作し、いま最も注目を集めている若手作家の一人です。近年では、A/Dギャラリーでのグループ展、バンビナートギャラリーでの個展等々、精力的に活動の場を広げています。アートフェア東京2020では、多田恋一郎の新作を発表します。

P09 ex-chamber museum



参加予定作家 田島大介

田島大介は、アクロバティックな視点からさまざまな都市風景を描きます。ひとつの作品に刻み込まれる無数のアグレッシブな線、その組み込みに導き出される凄まじい情報量。大きな画面では1メートルを超える長い直線も駆使することで極めて動的かつ壮大なスケール感が生み出され、ディテールにおいてはどこか刹那的でもある粗いテイストの線の密集が、自身が描く世界観に寧ろポジティブに反映され、独創性に溢れ、鑑賞者を圧倒するビジュアルを構築します。AFT2020では、ドローイングに加え、銅版画作品も発表予定です。

P10 HARMAS GALLERY



参加予定作家 今野健太

今野健太は1980年生まれ。東京芸術大学大学院博士後期課程美術専攻を修了後、東京近郊で制作を行っています。

一貫して人体彫刻を主軸に、人間という存在の不確かさや不安をテーマに、複数の人間が溶けあったような立像や

歪みやスケールの違和感をはらんだ、デフォルメされた人物たちを制作してきました。

長期にわたる制作期間が必要な作品とは違った即興性を持つ「テノヒラ」と題された作品群を近年作成しており、作家自身の掌のディテールと、原始彫刻や欠損したギリシャ彫刻をはじめとする過去の彫刻群のフォルムを掛け合わせた、アノニマスな素朴さと現代的なコラージュ感覚が同居した彫刻群です。

P11 Takashi Somemiya Gallery



参加予定作家 午居 悟

午居 悟は、なにが描かれているか、ということ以上に、どのようにして作られているか、ということに興味をもって制作しています。

作品のメディウムにはシリコンを使用しています。シリコンのゴム的な質感には、プラスチック等に共通した人工的な素材としての美しさを感じています。

また、シリコンは油彩等に比べて硬化速度がはやいため、自身の作業が制限されますが、そのコントロールしきれない状態の中から生み出される描画行為そのものを見せたいとも考えています。

P12 クリアギャラリートーキョー



参加予定作家 稲垣美侑

稲垣美侑は、1989年生まれ。その土地の風土や人建造物を考察し、自らその場所を訪れ歩き、目にした情景やその土地と自身との関係性を、油彩画と布などを用いたインスタレーションで表現している。自身の見た“風景”を、言葉を紡いでいくように色彩を重ね、絵画を媒介にして顕在化している。2019年「パララドス ケープ “風景”をめぐる想像力の現在」(三重県立美術館)に参加しました。



「アートフェア東京2020」開催概要

2020/2/13

名称:	アートフェア東京2020		
企画内容:	国内外コマーシャルギャラリーによる美術品の展示及び販売		
開催日程:	2020年 3月19日(木) - 22日(日) ※3月19日(木)は招待制		
※最終入場は各日終了30分前	プレスビュー	3月19日(木)	13:00 - 14:00
	プライベートビュー		14:00 - 16:00
	ベルニサージュ		16:00 - 20:00
	パブリックビュー	3月20日(金・祝)	11:00 - 20:00
		3月21日(土)	11:00 - 20:00
		3月22日(日)	11:00 - 17:00 ※開催日時全て予定
会場:	東京国際フォーラム ホールE/ロビーギャラリー(東京都千代田区丸の内3-5-1)		
出展者数:	Total :147 軒 Galleries :124 軒 Projects :12 軒 Crossing :11 軒		
予想入場者数:	60,000人		
入場料:	前売券 1-Day パスポート 4,000円(税込) 当日券 1-Day パスポート 5,000円(税込) 小学生以下は、大人同伴に限り入場無料		
主催:	一般社団法人 アート東京 / テレビ東京 / BSテレビ東京 / 株式会社電通		
企画:	アートフェア東京2020実行委員会		
企画協力:	東方文化支援財団		
後援: ※随時更新	内閣府 外務省 経済産業省 厚生労働省 文化庁 観光庁		
	アフガニスタン・イスラム共和国大使館 アルメニア共和国大使館 ベリズ大使館 ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館 ブリティッシュ・カウンシル ブルキナファソ大使館 中華人民共和国駐日本国大使館 クロアチア共和国大使館 デンマーク王国大使館 コンゴ民主共和国大使館 エルサルバドル共和国大使館 フィジー共和国大使館 ジョージア大使館 ギリシャ大使館 ハイチ共和国大使館 アイスランド共和国大使館 イラク共和国大使館 イタリア大使館 韓国大使館 韓国文化院 ラオス人民民主共和国大使館 リビア大使館 マラウイ共和国大使館 マリ共和国大使館 メキシコ大使館 モロッコ王国大使館 ナミビア共和国大使館 ナイジェリア連邦共和国大使館 オマーン・スルタン国大使館 パナマ共和国大使館 フィリピン共和国大使館 サモア独立国大使館 セルビア共和国大使館 スロベニア共和国大使館 スーダン共和国大使館 タイ王国大使館 トンガ王国大使館 ウガンダ共和国大使館 ウルクアイ東方共和国大使館 ベトナム社会主義共和国大使館	アンゴラ共和国大使館 オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム ベナン共和国大使館 ボツワナ共和国大使館 ブルネイ・ダルサラーム国大使館 在日本カンボジア王国大使館 コロンビア共和国大使館 キューバ共和国大使館 ジブチ共和国大使館 エクアドル共和国大使館 エリトリア国大使館 フィンランド大使館、東京/フィンランドセンター ドイツ連邦共和国大使館 グアテマラ共和国大使館 ホンジュラス共和国大使館 インドネシア共和国大使館 アイルランド大使館 ジャマイカ大使館 クウェート国大使館 レバノン共和国大使館 リトアニア共和国大使館 マレーシア大使館 マーシャル諸島共和国大使館 モルドバ共和国大使館 モザンビーク共和国大使館 オランダ王国大使館 北マケドニア共和国大使館 バキスタン・イスラム共和国大使館 パラグアイ共和国大使館 ポルトガル大使館 サンマリノ共和国大使館 シンガポール共和国大使館 南アフリカ共和国大使館 スイス大使館 東ティモール民主共和国大使館 チュニジア共和国大使館 ウクライナ大使館 ウズベキスタン共和国大使館 ザンビア共和国大使館	アルゼンチン共和国大使館 ベルギー王国大使館 ボリビア多民族国大使館 ブラジル大使館 ブルガリア共和国大使館 チリ共和国大使館 コスタリカ共和国大使館 チェコ共和国大使館 ドミニカ共和国大使館 エジプト・アラブ共和国大使館 エチオピア連邦民主共和国大使館 フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 ガーナ共和国大使館 ギニア共和国大使館 ハンガリー大使館 イラン・イスラム共和国大使館 イスラエル大使館 ヨルダン・ハシメット王国大使館 キルギス共和国大使館 レソト王国大使館 マダガスカル共和国大使館 モルディブ共和国大使館 モーリタニア・イスラム共和国大使館 モンゴル国大使館 ミャンマー連邦共和国大使館 ニカラグア共和国大使館 ノルウェー大使館 パラオ共和国大使館 ペルー共和国大使館 ルーマニア大使館 セネガル共和国大使館 スロヴァキア共和国大使館 スペイン大使館 シリア・アラブ共和国大使館 トーゴ共和国大使館 トルコ共和国大使館 アメリカ合衆国大使館 ベネズエラ・ボリバル共和国大使館 ジンバブエ共和国大使館
	北海道 群馬県 千葉県 福井県 京都府 大阪府 奈良県 香川県 豊島区 富山市 金沢市 京都市		
	日本赤十字社		
	イープラス 日本経済新聞社 毎日新聞社 文化放送 TBSラジオ		
協賛:	寺田倉庫株式会社 株式会社モリモト 積水ハウス株式会社 クレディ・スイス 住友不動産株式会社		
オフィシャルパートナーホテル:	シャングリ・ラ ホテル 東京		
オフィシャルファニチャー:	株式会社イロコデザインジャパン		
協力:	MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社 瀬祭 株式会社 羽田未来総合研究所 エイベックス株式会社 ArtScouter ルイスボールセン ジャパン株式会社 株式会社 丸山珈琲 アークヒルズクラブ 六本木ヒルズクラブ		
施工協力:	株式会社 八紘美術 株式会社ケイ・スリー・クリエーション 株式会社イーストクルー		
特別協力美術館:	東京国立博物館 東京国立近代美術館 国立新美術館 東京都現代美術館 東京都美術館 横浜美術館 群馬県立近代美術館 出光美術館 東京オペラシティアートギャラリー 戸栗美術館 原美術館 ポーラ美術館 三菱一号館美術館 森美術館 エスパス ルイ・ヴィトン東京 アーティゾン美術館 上野の森美術館 建築倉庫ミュージアム 東京ステーションギャラリー 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館		
パートナーイベント:	ART in PARK HOTEL TOKYO 2020 3331 ART FAIR 2020		
ホームページ:	https://artfairtokyo.com		
問い合わせ:	一般社団法人 アート東京 〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階 TEL : 03-5797-7912 FAX : 03-5797-7913 E-mail : info@artfairtokyo.com		
	アートフェア東京2020は「日本博参画プロジェクト」及び「beyond 2020プログラム」です。		